

2020年度 自己評価・学校関係者評価・第三者評価報告書

自令和2年4月1日 至令和3年3月31日

学) そだちの園 さかのうえようちえん

1. 本園の教育目標

- 1) 健全な心身の発達を促す
- 2) 自立した生活習慣を身につける
- 3) 感謝の心を養う
- 4) 思いやりのある人に
- 5) 最後まで頑張る

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1) 子どもの発達段階に則し、意欲的に取り組める保育内容の導入
- 2) 研修等による全教室における保育の質の向上
- 3) 負担軽減のための体制の見直し

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもの発達段階に則し、意欲的に取り組める保育内容の導入	B	行事や成果中心の保育内容から、園児の経験の過程を重視し、結果として成果が上がる内容にできた。
2	研修等による全教室における保育の質の向上	C	保育内容は均一になったが、指導方法には一部、ばらつきがみられる。
3	負担軽減のための体制の見直し	A	フリー教員や事務員など、人員増によって体制が確率し、産育休の取得も活発になった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	園児の発達段階に則した活動が増え、研修により、指導方法も確立しつつある。ただ、教員によって、指導方法の差があること、業務の進度に差がみられることがあるので、次年度以降の課題として、取り組む必要性を感じるため。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育活動の充実	活動前に指導案を作成し、園内で確認する体制を確立すること。また、適切な指導案を、園外から集め、参考にできるようにすること。
2	教員による指導力の差	定期的な園内研修を行い、教員への指導体制を確立すること。また、外部から指導講師を招いた研修を定期的に行うこと。
3	業務負担の均一化	事務の省力化のため、ICTを積極的に活用すること。それにより、教員の園内研修や、指導案作成の時間を、さらに確保すること。

6.学校関係者の評価

新型コロナウイルスの対応等により、活動内容等が制限された部分があるが、園児主体の活動が中心となっていることは評価できるため、今後も、園児の発達段階を鑑みて活動を取り入れ、実践していくことを期待する。

評議員 高橋 徹

十分な感染対策のもと、園の運営が行われていたことは評価できる。今後は、感染対策と、園児や保護者の体験の充実の両立に挑戦してもらいたい。

卒園児保護者 佐藤 暢子

7.第三者の評価

指導内容の見直しが進められている。教員による指導の内容の差はあれど、より発達段階に則し、園児主体の活動が徐々に浸透していることを感じるため、これからは園内研修の充実や、指導案の立案や確認体制の確立等により、全教員の指導力向上に努めてもらいたい。

千里敬愛幼稚園 園長 小谷 隆真